

松巖寺 境内ライトアップ & 三味線コンサート 道元禅師一代記 絵解き

入場無料



とよしずね

豊静音

長野で故・春日とよ信衛（花柳三代菊）師、東京で故・三味線 豊静師、杵屋臣師に師事。端唄、小唄、俗曲、大和楽を中心とする邦楽演奏家として長野市を中心に活動中。長野市、上田市で三味線・端唄小唄教室を主宰する



しずあやの

静綾乃

鬼無里出身 豊静音師に師事。趣味で三味線の稽古を続けている

日時：令和4年4月24日（日）

17:00～

場所：松巖寺

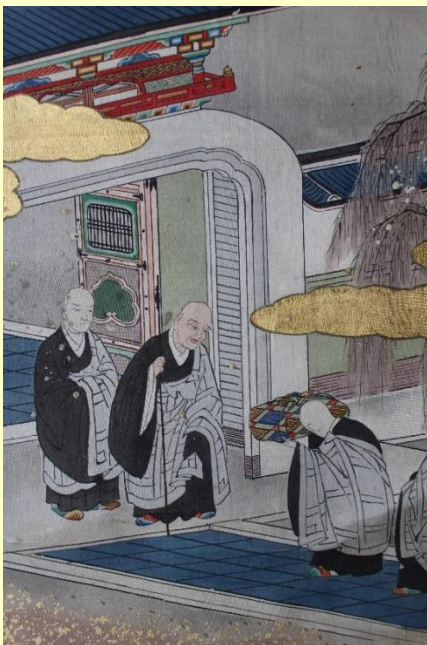
問合せ／松巖寺 (026-256-2061)

道元禅師一代記 絵解き

掛け軸4幅、全70場面



天童山での修行の場面



如浄禅師より最後の教えの場面

道元禅師ご生涯

- 正治2年（1200）1月2日山城国宇治に生まれる。父、久我通親、母、伊子。
- 建仁2年（1202）3歳で父が他界する。
" 3年（1203）4歳唐の詩人李嶠の「百詠」を読む。
- 承元1年（1207）母の死に接し、世の夢幻を感じて脱塵の志を懐く。
" 2年（1208）世親の「俱舍論」を読破する。
- 建暦3年（1213）比叡山にいる母方の叔父・良頭を訪ねる。
- 建保2年（1214）天台座主公円について出家し、仏法房道元と名乗る。
- 建保3年（1215）園城寺（三井寺）の公胤の元で天台教学を修める。
- 建保5年（1217）建仁寺にて栄西の弟子・明全に師事。
- 貞応2年（1223）明全とともに博多から南宋に渡って諸山を巡る。
- 宝慶元年（1225）天童如浄の「身心脱落」の語を聞いて得悟。中国曹洞禅の、只管打坐の禅を如浄から受け継いだ。
- 安貞元年（1227）帰国。帰国前夜『碧巖録』を書写したが、白山妙理大権現が現れて手助けしたという伝承がある（一夜碧巖）。同年『普勸坐禅儀』を著す。
- 天福元年（1233）京都深草に興聖寺を開く。
- 寛元元年（1243）越前国の地頭波多野義重の招きで越前志比荘吉峰寺に移転。
- 寛元2年（1244）傘松に大佛寺を開く。
- 寛元4年（1246）大佛寺を永平寺に改め、自身の号も希玄と改める。
- 宝治元年（1247）執権北条時頼、波多野義重らの招請により教化のため鎌倉に下向する。
- 建長5年（1253）病により永平寺の住職を、弟子孤雲懷奘に譲り、没す。享年54（満53歳没）。
- 嘉永7年（1854）孝明天皇より「仏性伝東国師」の国師号を宣下される。
- 明治12年（1879）明治天皇より「承陽大師」の大師号を宣下される。

【日 程】

17:00 法 要
17:15 絵解き
18:30~20:00
三味線コンサート
ライトアップ

※コロナの感染が拡大した場合、内容の変更、中止する場合がございます。ご確認いただきご来場ください。

※会場を換気しながら行いますので温かい服装でお越し下さい。